

株式会社米風土鳥取プラン

作成者 株式会社米風土鳥取

事業主体 株式会社米風土鳥取

はじめに

日本の農業の存続、危機が心配される中、日南町も例にもれず、農業従事者の高齢化や減少による農業の担い手不足のために、耕作放棄地や遊休農地が増加し、生産面ばかりか生活面にも悪影響を及ぼすことが今後ますます懸念される状況にあります。

そのような中、農業のみならず地域の活性化に貢献できるような事業を研究するために農業法人株式会社米風土鳥取を平成21年に設立し、水稻を中心に安定した経営を目指してやってきました。

ところが昨今の米価の低迷、さらに資材や燃料の高騰により経営はとてむろしくなってきました。

平成25年度にがんばる農家プラン事業に取り組み、かなりの成果をあげることが出来ました。平成26年度に導入を計画していた田植え機等については、有機農法に取り組んだため機種選定を考慮し1年間検討することとし、導入を遅らせました。又、平成26年度は天候不順のため病害虫の発生が多く、収量、品質とも低下したため、対策として背負式動力噴霧機と自走式ラジコン動力噴霧機を導入し防除することにしました。よって、このたび平成27年度がんばる農家プラン事業に取り組み、若年の新規雇用、後継者を確保し、水稻の省力化、規模拡大と品質向上を図り、さらに安定した経営の確立と地域の農業を守っていくことを目指します。

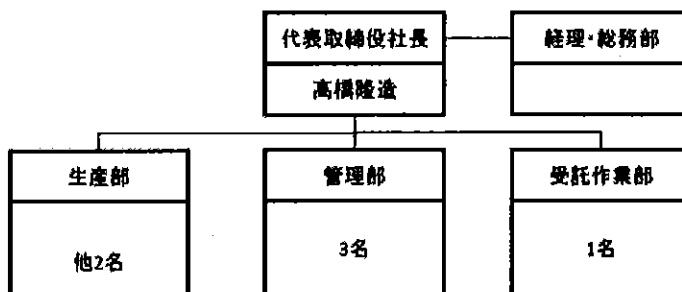
<会社概要>

法人名：株式会社 米風土鳥取

設立年月：平成21年4月

出資金： 4,500千円

<組織図>



1 生産経営の現状、課題

1) 生産経営の現状（平成26年度実績）

<経営規模>

	自作地	借入地	合計
H24	0 h a	9. 5 h a	9. 5 h a
H26	0 h a	10. 3 h a	10. 3 h a

<作目>

	水稻	そば
H24	6. 3 h a	3. 2 h a
H26	7. 5 h a	2. 8 h a

※水稻は特別栽培米として耕作面積を増やしている。ブランド化により、ほとんどを消費者に直送販売し利益率を高めている。そばはJAに販売している。

<作業受託>

	草刈	あぜ塗	代掻き	田植え	刈取り	乾燥調製
H24	3 h a	0 h a	0 h a	0 h a	0 h a	0 h a
H26	3 h a	1 h a	1 h a	0. 2 h a	1 h a	1 h a

2) 課題等

① 外注費の増加

秋季作業は作業施設の建設、機械の導入により当初の予定どおり順調に終了することが出来ましたが、田植え作業は、田植え機を所有していないため賃借料が発生しています。

② 受託作業ができないことによる農業収入の減

作業施設の建設、秋季作業機械の導入は達成できましたが、受託作業については目標面積、目標金額ともに達成出来なかった。田植え機は、より付加価値販売を行うための有機農法の取り組み検討により有機栽培対応の田植え機に変更する可能性があったため、行政とも相談して1年遅れても大勢に影響はないと考え、導入を見送った。

結果、有機栽培は手応えはあったが、経営上優先すべきは一般用田植え機と考え、当初計画どおりの機種としました。

③ 品質管理

田植え機はレンタルを行っていたが、希望した時期に借りられず、苗の老化、分けつ力の低下など水稻の生育が悪くなり、雑草の増加など品質管理が困難な状況にある。

また、これまでは機械レンタルをしていたため当初の計画にあげていなかった背負式動力噴霧機、自走式ラジコン動力噴霧機の追加申請を行い病害虫防除を徹底し、さらなる品質向上を目指します。

④ 作業効率の向上

特別栽培米を生産しているため肥培管理や防除に手間がかかり、また、作付地域は未整備田が多く、面積の割に筆数が多く畦畔管理に大きく手をとられます。
機械導入による軽労化は最優先課題です。

米風土鳥取保有機械、施設等

機械、施設名	取得年月	形式、性能、規模	台数
トラクター (中古)	平成24年 4月	2PS	1台
運搬トラック	平成23年 3月	軽トラック	1台
コンバイン (4条)	平成25年11月	4条刈	1台
作業施設	平成25年11月		1棟
米乾燥機	平成25年11月	40石	1台
米乾燥機 (中古)	平成25年11月	20石	1台
糶摺り機	平成25年11月	5インチ	1台

2 生産経営等の改善内容と効果

1) 改善内容

<目標>

費目	平成24年 (実績)	平成25年 (実績)	平成26年 (実績)	平成27年 (計画)	平成28年 (計画)
水稻の規模拡大	6.3ha	7.4ha	7.5ha	10.5ha	11.5ha
そばの規模拡大	3.2ha	3.0ha	2.8ha	4.5ha	4.5ha
受託面積の拡大	3.0ha	3.0ha	7.2ha	16.5ha	17.5ha
外注費の抑制	千円	千円	千円	千円	千円

① 農業用機械の導入による外注費減と作業の効率化

田植え機等の導入により外注費の抑制を図る。

(平成26年度田植え機賃借料 千円)

また、畔草刈機・動力散布機・苗箱洗浄機・背負式動力噴霧機・自走式ラジコン動力噴霧機を導入し、作業の効率化を図りながら規模拡大や作業受託の拡大を目指します。

② 規模拡大の伴い、新規雇用・後継者の確保を目指す。

③ 農技術、知識の向上を図り、品質維持向上を目指しオーナー水田の割合を増やし売上の向上を目指す。

2) 期待される事業の効果及び目標

- ① 作付地や作業受託を拡大することで、耕作放棄地の増加を防止し、地域の農地保全に貢献する。
- ② 機械の導入により作業の効率化を図ることができる。
- ③ 新規労働者を確保することにより、地域住民の雇用をうむことができる。
- ④ 特別栽培米の栽培により、環境に配慮した農業を推進することができる。

3 目標達成に向けての取り組み (年次別の行動計)

項目	内容	H25	H26	H27	H28	備考
地域の農地保全	耕作放棄地の解消	○	○	○	○	
新規雇用	後継者の確保	○	○	○	○	
コンバインの導入	水稻の刈取作業機械	◎				
作業施設建設	水稻の乾燥調整機を設置する施設	◎				
米乾燥機、籾摺り機の導入	米の乾燥調整をする機械	◎				
田植え機の導入	水稻の田植えをする機械		(◎)	◎		
草刈機の導入	畦畔の草を刈る機械		(◎)	◎		
動力散布機の導入	肥料・農薬(粒剤、粉剤)を散布する機械		(◎)	◎		
苗箱洗浄機の導入	苗箱を洗う機械		(◎)	◎		
背負式動力噴霧機の導入	農薬(液剤)を散布する機械			◎		新規追加
自走式ラジコン動力噴霧機の導入	農薬(液剤)を散布する機械			◎		新規追加

注1: ◎は県、町の支援が必要なもの ○は継続事業

注2: 表中の () は変更前の計画

4 機械、作物の年次別計画

年 度	H 2 4 (実績)	H 2 5 (実績)	H 2 6 (実績)	H 2 7 (計画)	H 2 8 (計画)
機械、施設 導入計画		コンバインの導入 (5,470,000 円) 作業施設 (6,871,429 円) 米乾燥機の導入 (1,645,000 円) 籾摺機の導入 (1,830,000 円)	(田植え機の導入) (畔草刈機の導入) (動力散布機の導入) (苗箱洗浄機の導入)	<u>田植え機の導入</u> <u>(3,130,000 円)</u> <u>畔草刈機の導入</u> <u>(348,000 円)</u> <u>動力散布機の導入</u> <u>(129,000 円)</u> <u>苗箱洗浄機の導入</u> <u>(155,000 円)</u> <u>背負式動力噴霧機</u> <u>の導入</u> <u>(112,000 円)</u> <u>自走式ラジコン動</u> <u>力噴霧機の導入</u> <u>(671,000 円)</u>	
対象作物の 生産計画	水稲 6.3ha そば 3.2ha	水稲 7.4ha そば 3.0ha	水稲 7.5ha そば 2.8ha	水稲 10.5ha そば 4.5ha	水稲 11.5ha そば 4.5ha
作業受託	草刈 3.0ha	草刈り 3.0ha	草刈り 3.0ha あぜ塗 1.0ha 刈取り 1.0ha 乾燥調製 1.0ha 代掻き 1.0ha 田植え 0.2ha	草刈り 3.0ha あぜ塗 2.5ha 田植え 2.5ha 代掻き 2.5ha 刈取り 3.0ha 乾燥調製 3.0ha	草刈り 3.0ha あぜ塗 2.5ha 田植え 2.5ha 代掻き 2.5ha 刈取り 3.5ha 乾燥調製 3.5ha

注 1 : 表中の () は変更前の計画

5 支援事業の内容



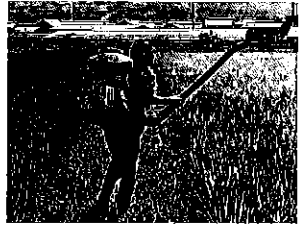
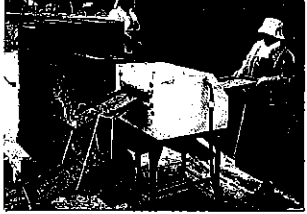

(単位：円)

内 容	事 業 費				負担区分 県 1/3 町 1/6 事業主 1/2
	H 2 5 (実績)	H 2 6 (計画)	H 2 7 (計画)	H 2 8 (計画)	
コンバインの導入	5,470,000				
作業施設の建設 (電気工事込)	6,871,429				
米乾燥機の導入	1,645,000				
籾摺り機の導入	1,830,000				
田植え機の導入		(3,130,000)	<u>3,130,000</u>		
畔草刈機の導入		(348,000)	<u>348,000</u>		
動力散布機の導入		(129,000)	<u>129,000</u>		
苗箱洗浄機の導入		(155,000)	<u>155,000</u>		
背負式動力噴霧機の導入			<u>112,000</u>		
自走式ラジコン動力噴霧 機の導入			<u>671,000</u>		
合計	15,816,429	(3,762,000)	<u>4,545,000</u>		

注 1：H 2 7 年度の補助残は公庫借入を予定している。

注 2：表中の () は変更前の計画

<機械使用のイメージ (H27)>

導入機械	用途 (使用時期)	写真 ※イメージ
田植え機	田植え作業 (5月)	
畔草刈機	畦畔の草刈 (6~9月) ・この機械では畔と畦の2段を同時に刈ることができ、省力化を図れる。	
動力散布機	肥料の散布 (7月) ・粒剤肥料を散布する。	
苗箱洗浄機	苗箱の洗浄 (4月) ・県特裁を行っており、苗箱の2回洗浄を行ってきた。 ・苗箱が千枚以上あるため、軽労化に繋がる。	
背負式動力噴霧機	除草剤散布 (6~9月) ・従来は草刈機で約90筆ある水田畦畔の草刈を行っていたが、電気柵への除草剤散布で軽労化を図る。 ・畔草刈機で対応出来ない場所などで作業を行う。	
自走式ラジコン動力噴霧機	病虫害防除 (8月) ・従来は粉剤を使用し、2人での作業が必要であったが、この機械の導入で1人で作業が可能。 ・朝晩の露で作業ができなかったが、液剤対応とすることで時間の制限がなくなる。	